

メディア関係者への セクシュアルハラスメントアンケート 結果

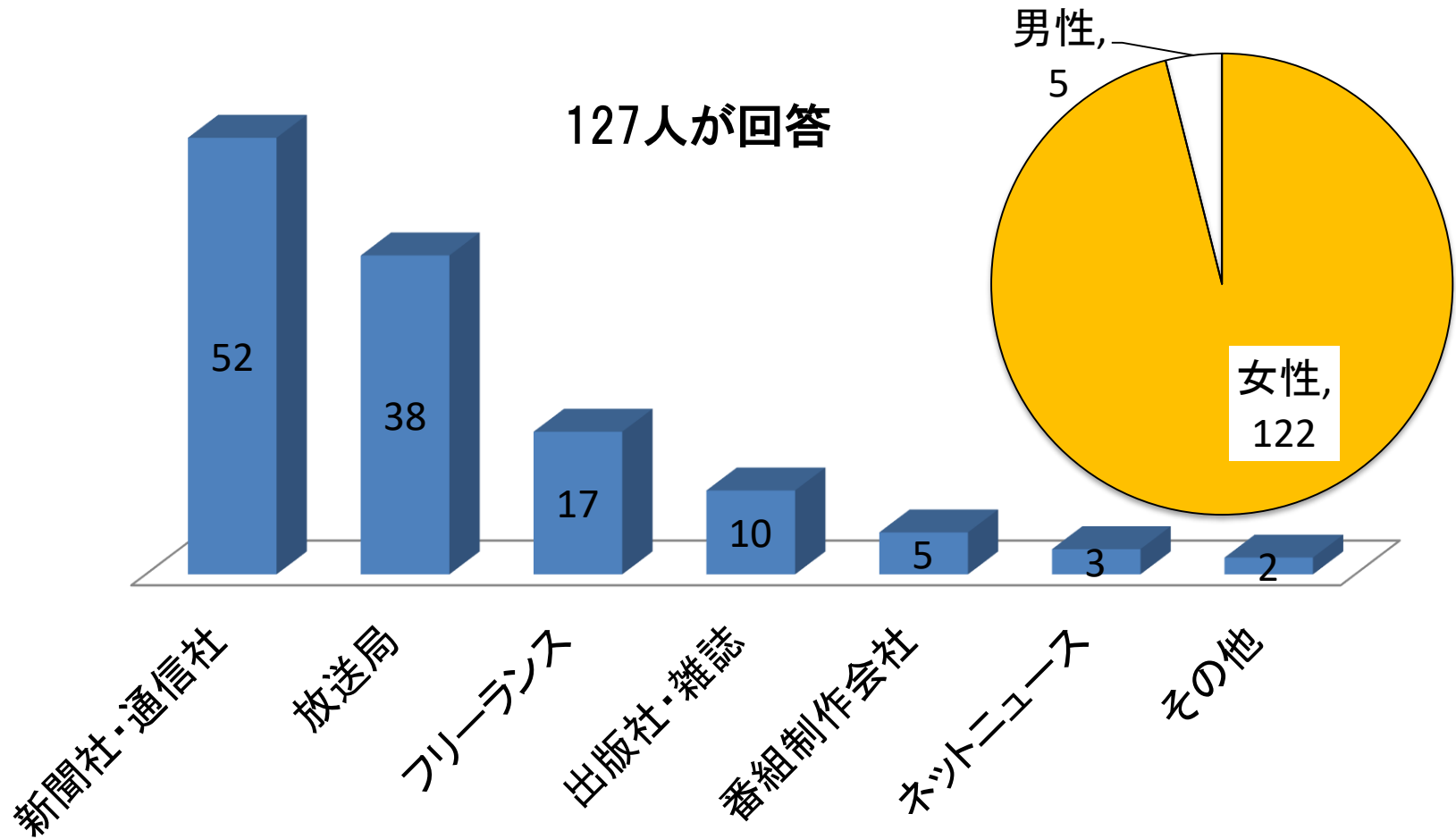
性暴力と報道対話の会

2018.8.28

はじめに

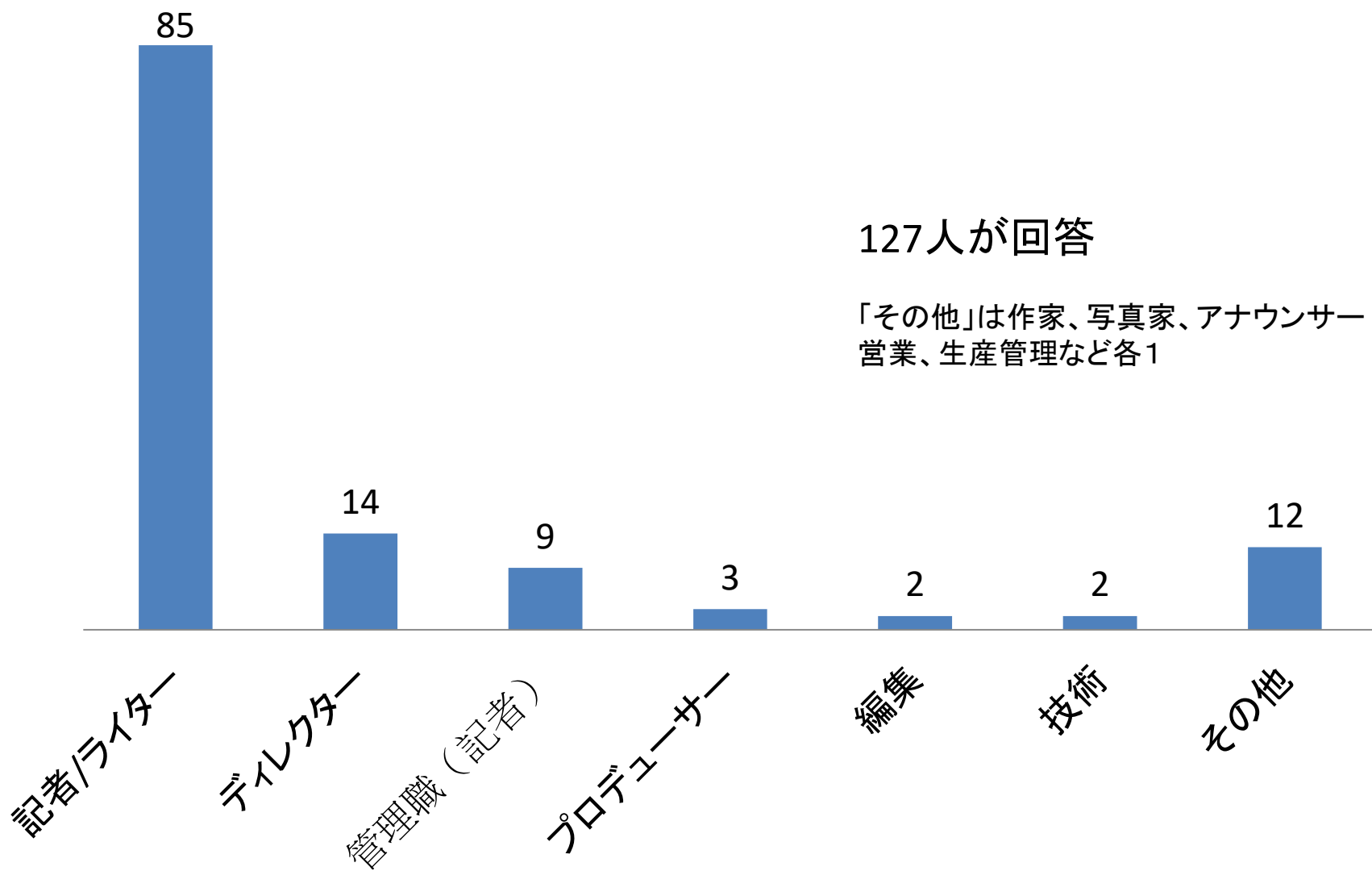
- 「性暴力と報道対話の会」が行った、4月24日からメディア経験者を対象にしたインターネットによる緊急アンケートの結果です。
- 会の関係者等からアンケートを配布し、任意に協力した127名の回答が得られました。
- どのような経験をしてきたのか、過去を含めて尋ねており、体験時の事情、状況等が反映されています。

回答者所属先と性別



*「新聞社・通信社」「番組制作会社」の項は「元職」を含む

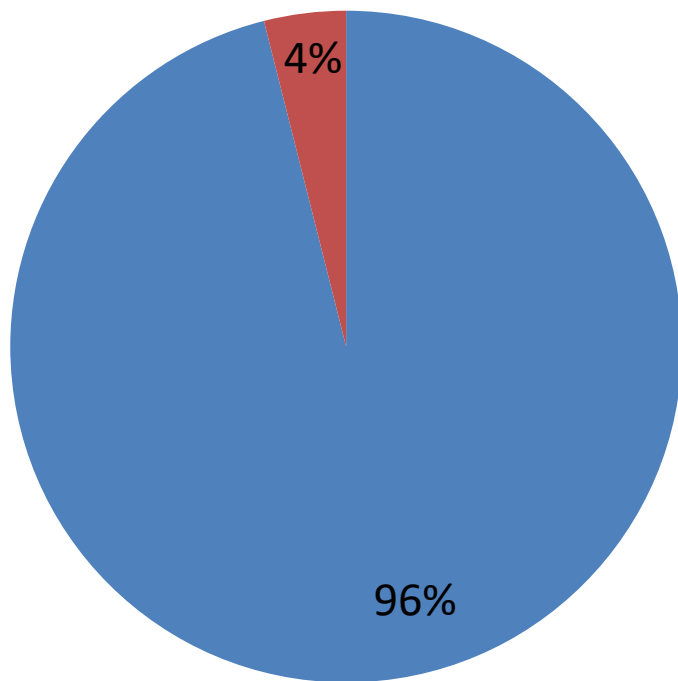
回答者の職種



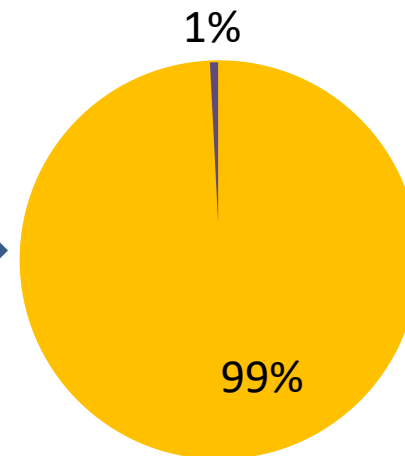
セクハラを受けた経験

N=127

■ あり 122 ■ なし 5

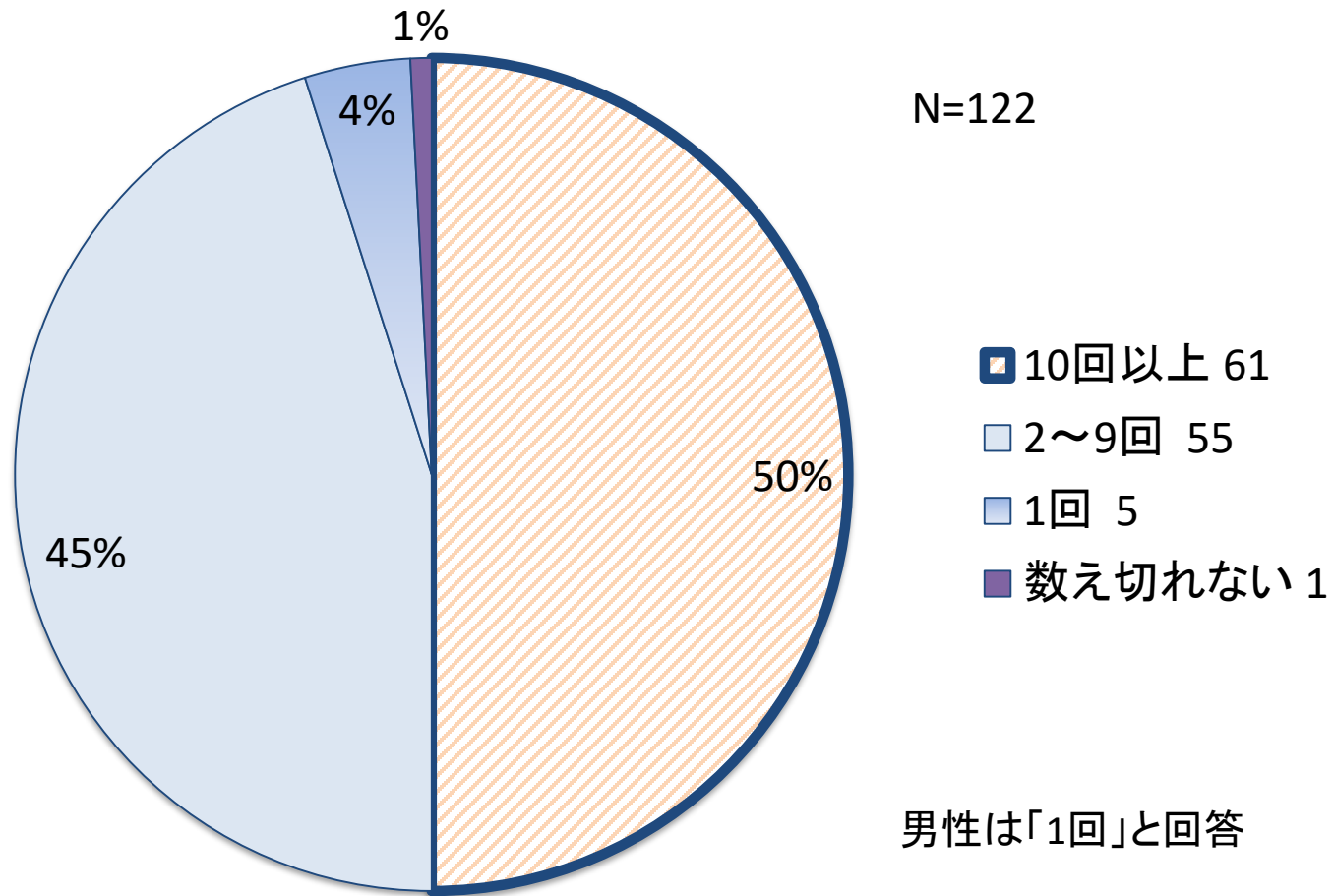


122人の内訳



■ 女性 121
■ 男性 1

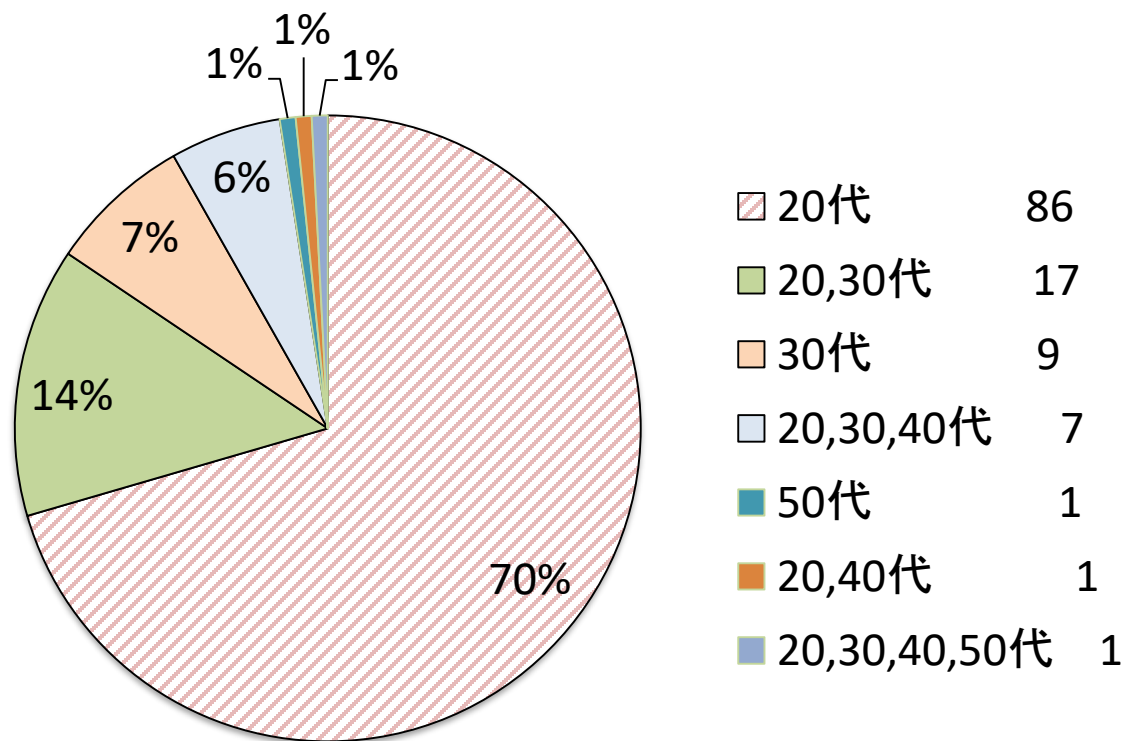
122人がセクハラを受けた回数



そのときの自分の年代

(最も傷ついた体験を聞いたが、複数の年代を回答する人が多かった)

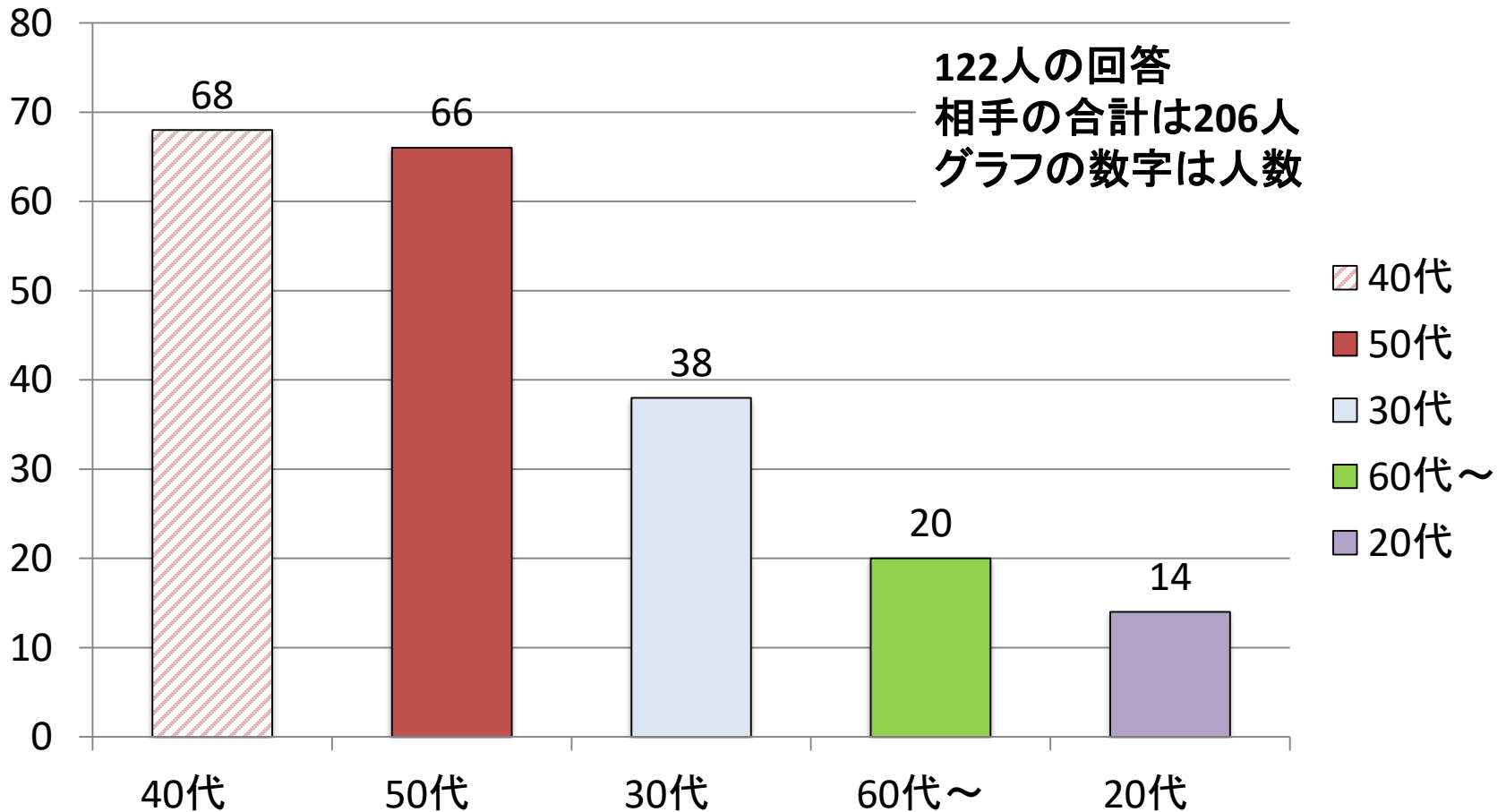
自分



N=122

そのときの相手の年代①実数

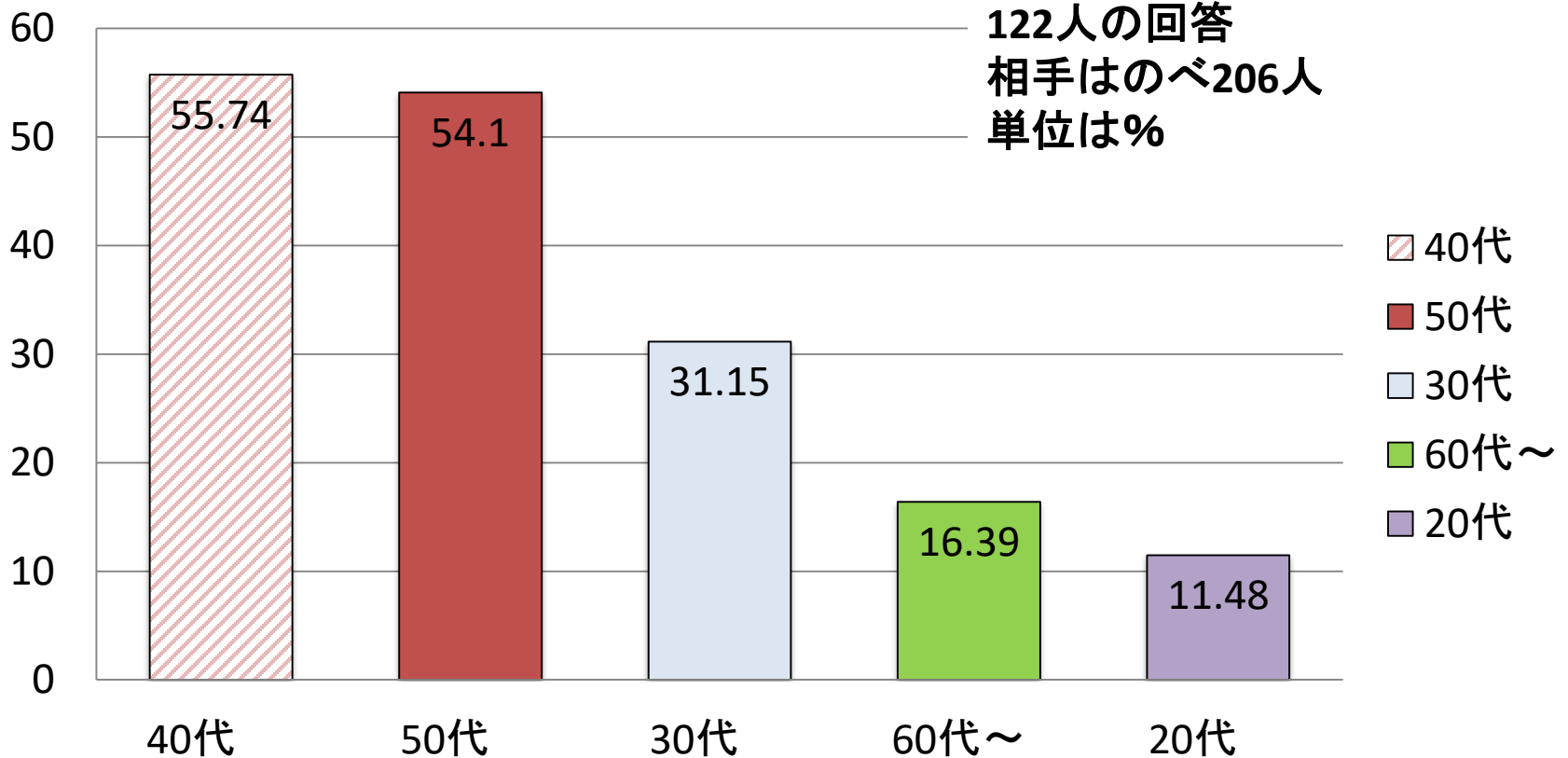
(最も傷ついた体験を聞いたが、複数の年代を回答する人が多かった)



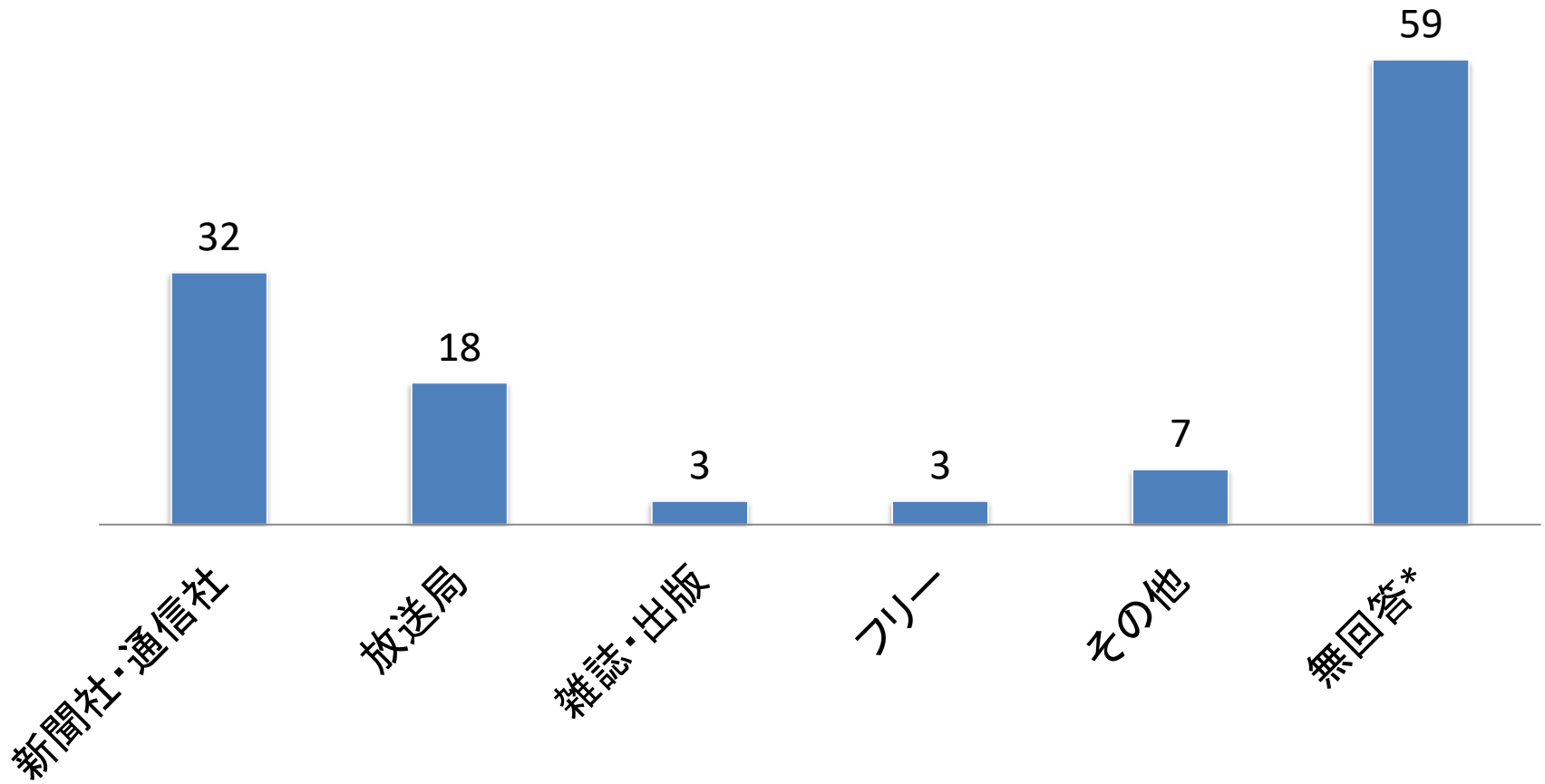
そのときの相手の年代 ②割合

(最も傷ついた体験を聞いたが、複数の年代を回答する人が多かった)

相手



そのときの業種 (N=122)

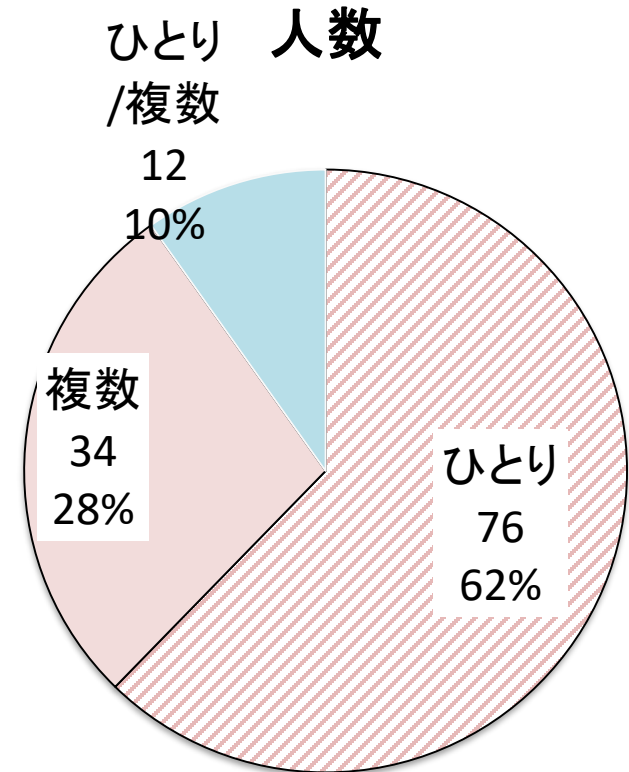
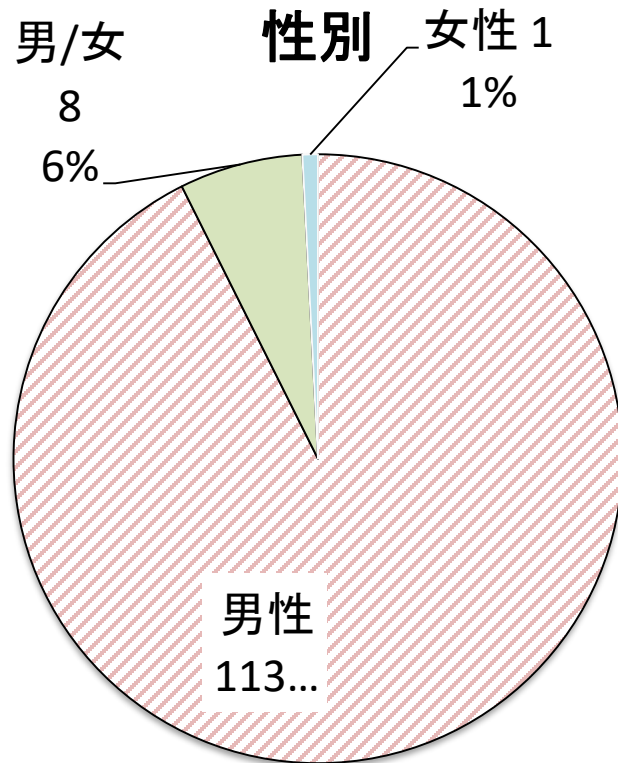


* 途中から設問を設定した
設定以前の回答者を「無回答」に分類

そのときの相手

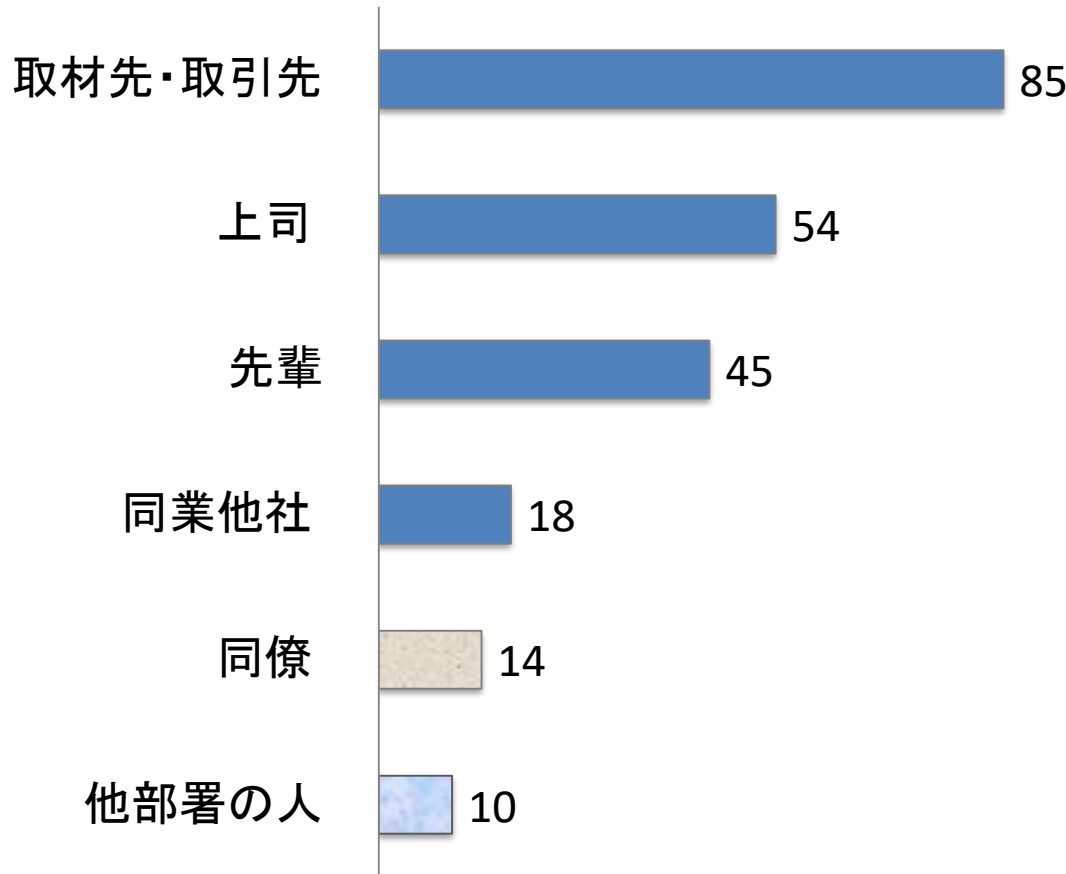
(最も傷ついた体験を聞いたが、複数の回答があり、分類した)

N=122

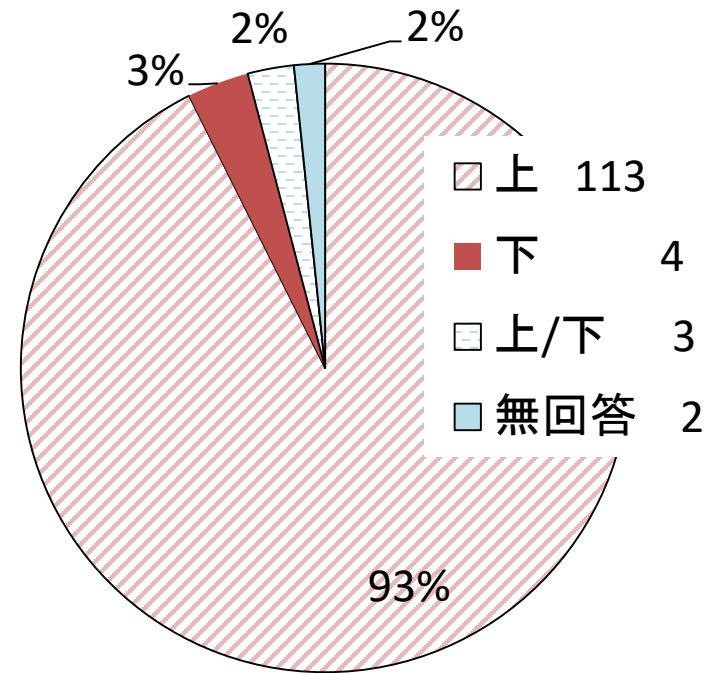


相手との関係

属性



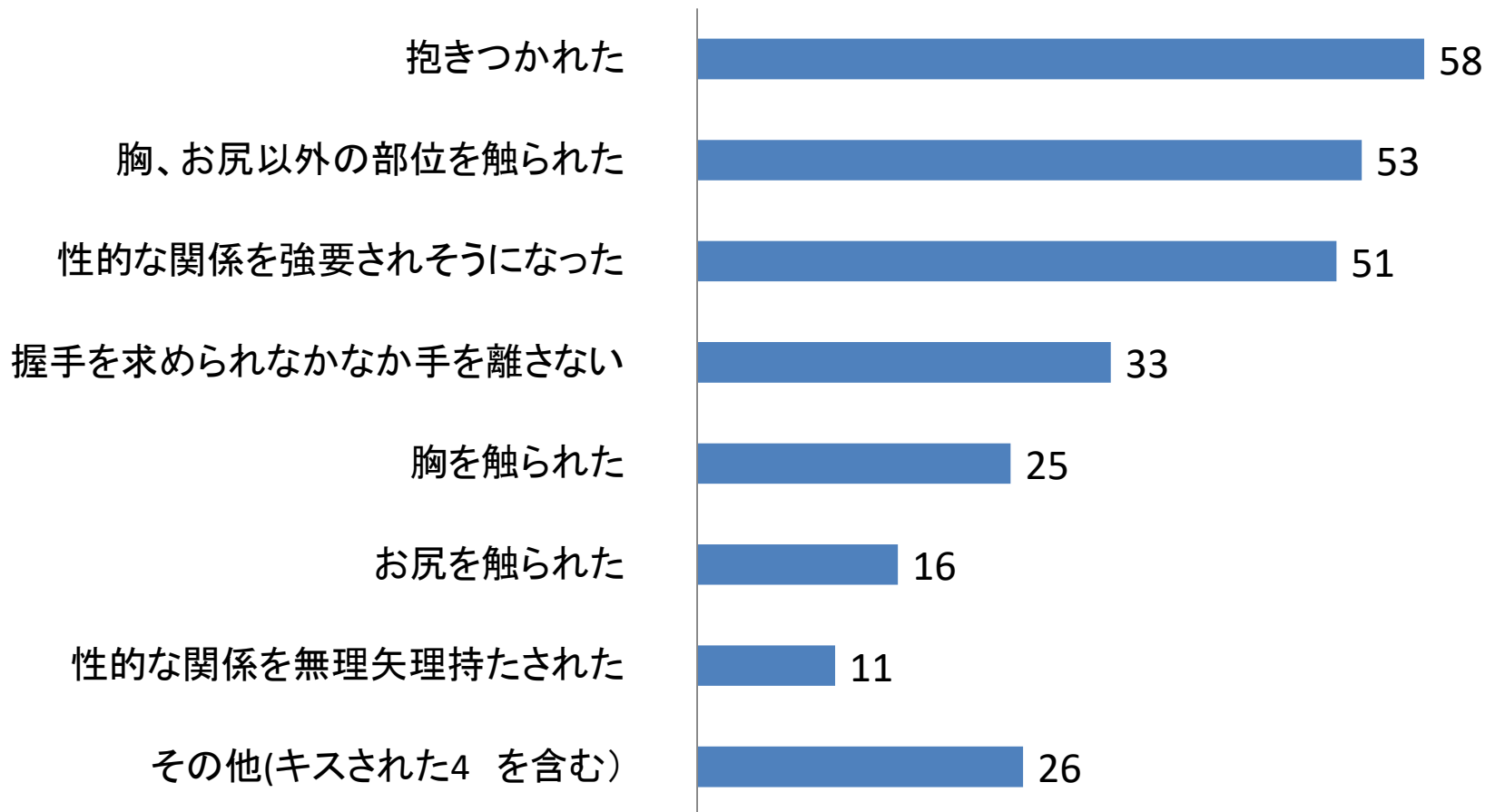
社会的関係・上下関係



122人が回答 複数選択が多くの際は226件になった

そのときの状況① (122人が複数回答)

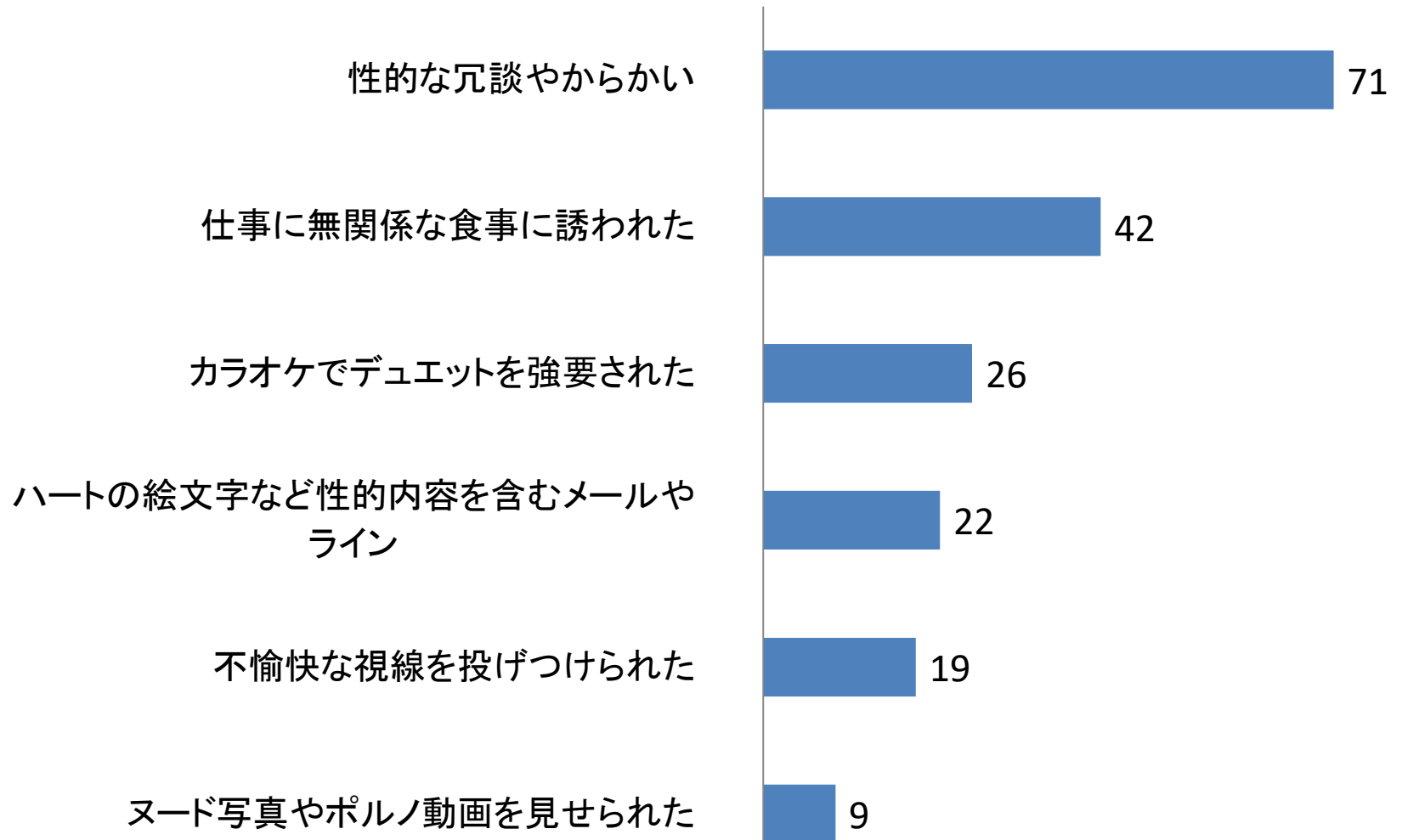
接触型



そのときの状況②

(122人が複数回答)

非接触型



その他 自由記述

<非接触>

- ・社内の人とつきあっているなど事実無根の噂を流された
- ・本人が性的サービスを受ける店に同行させられた
- ・強姦事件の詳細を声高に語り、こちらの反応をながめた。
- ・交際関係や結婚関係を執拗に聞く
- ・あんたとは「やりたくない」と言う。
- ・男性体験の告白を求められた。
- ・結婚後、上司に「取材先が離れていくぞ」などと言われた。
- ・結婚後、担当を変えられた。

<つきまとい>

- ・トイレについてきた。
- ・無言電話、郵便物損壊などのストーカー行為。
- ・しつこく何度も電話された

<接触>

- ・相手の求めるところを触らさせられた。
- ・取材中、ずっと手をつながれた
- ・むりやりキスされた。

<見せられる>

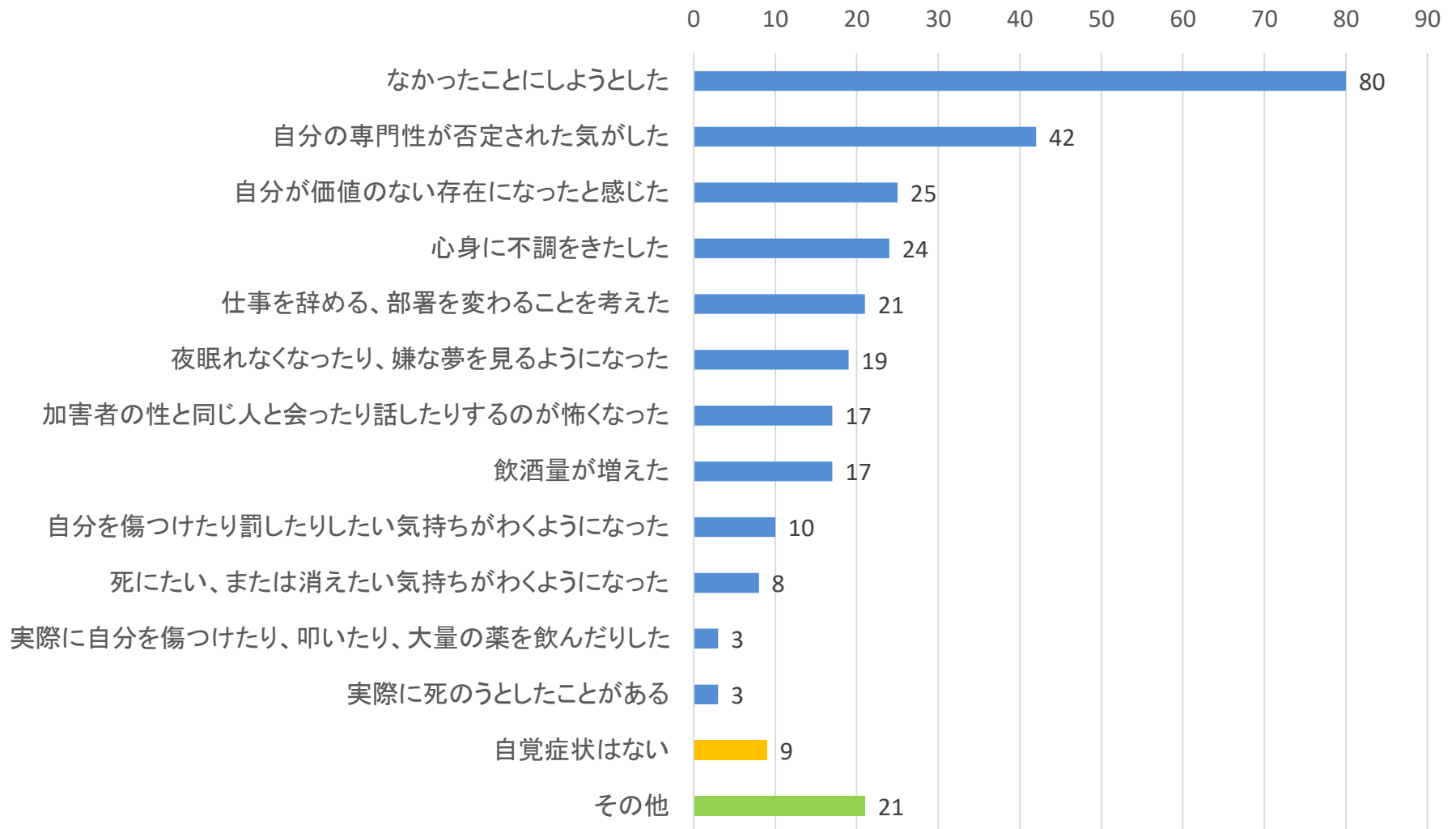
- ・カラオケで男性が裸になり、それを周囲が許容する。
- ・職場で夜、裏ビデオ鑑賞会があった。持ってきたのは管理職。

<誘い>

- ・性的な関係を持たないか、誘われた
- ・暗にホテルに誘われた
- ・「俺の家に行こう」などと言われた。

出来事後の心身の状況

(122人が複数回答)



その他 自由記述

<流さなければと思った>

- ・笑って受け流そうとした
- ・だんだんと麻痺して、必要以上に笑ってやり過ごせることに価値を置くようになった
- ・不愉快になったが、私はこれくらい平気、と言い聞かせた
- ・不愉快な気分になったが、もう一緒に飲まなければいだけと考えた

<仕事をあきらめた>

- ・その仕事はあきらめようと思った
- ・取材に行くのをやめた
- ・業務と無関係に、男性に気を使わないといけないのかと行動を変えるようになった
- ・アホばかりだなと思うことにして、相手が取材先の場合は関係を絶った。

<批判や無価値感への不安>

- ・女はダメだと批判されることにおびえた
- ・働く仲間であることを否定された気がした。
- ・女は、性的な対象(遊びの道具)くらいにしか価値がないんだと感じた...

<不快・腹立たしい・怖い>

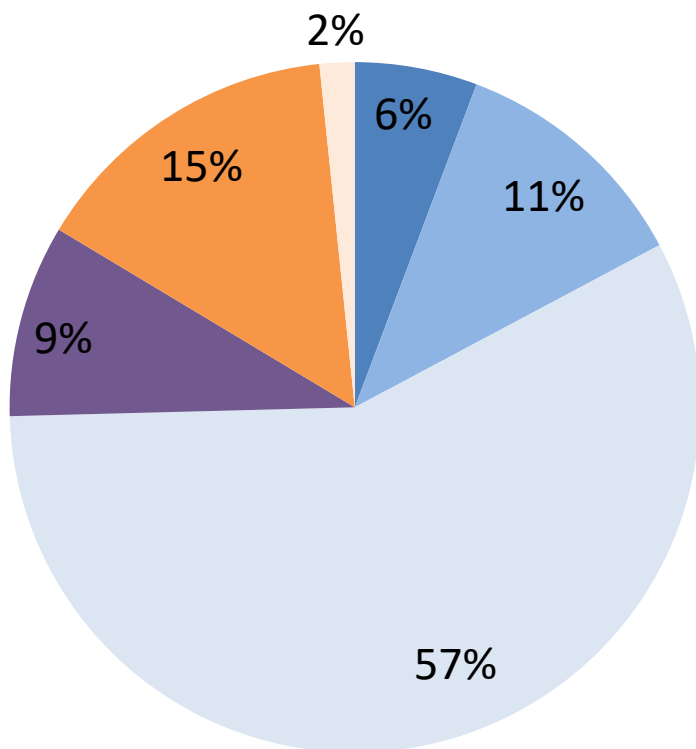
- ・不快だった
- ・いやな気持ちになった
- ・無言電話の繰り返しで電話に出るのが怖くなった。
- ・転居した。
- ・ただただ腹立たしかった

<報告した>

- ・会社の人事に報告した

今でも傷ついたり悩んだりするか

N=122



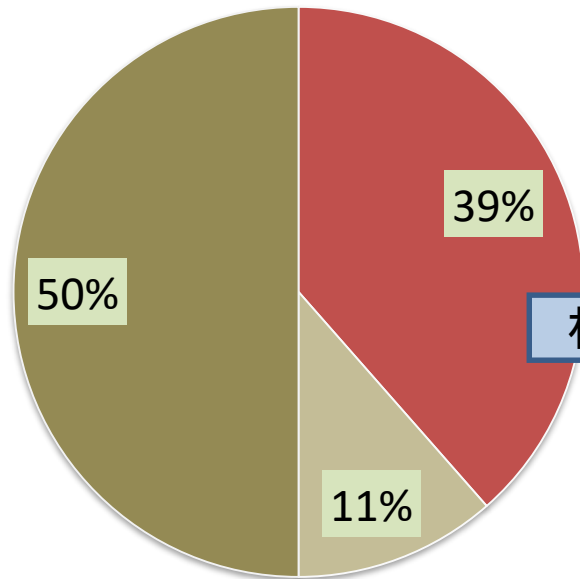
■ 非常に	7
■ かなり	14
■ すこし	70
■ わからない	11
■ 全くない	18
■ 無回答	2

74%が今も傷ついたり
悩んだりしている

相談について

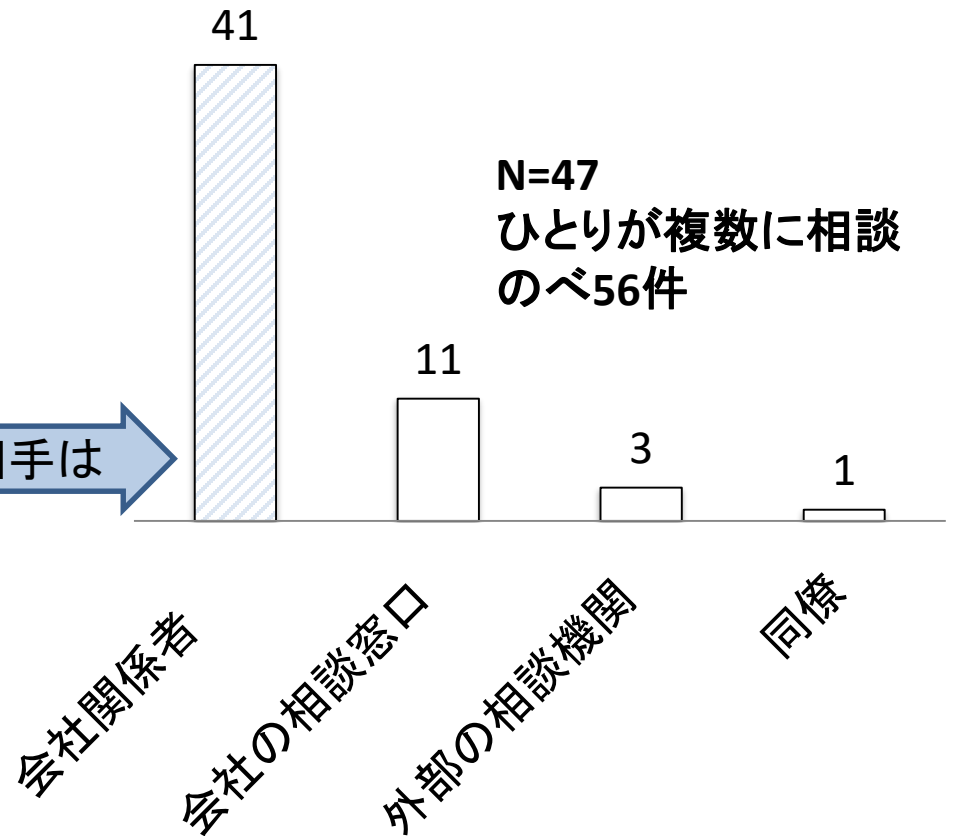
* 回答者N=122

- 相談した 47
- 相談しなかった 14
- 考えなかった 61

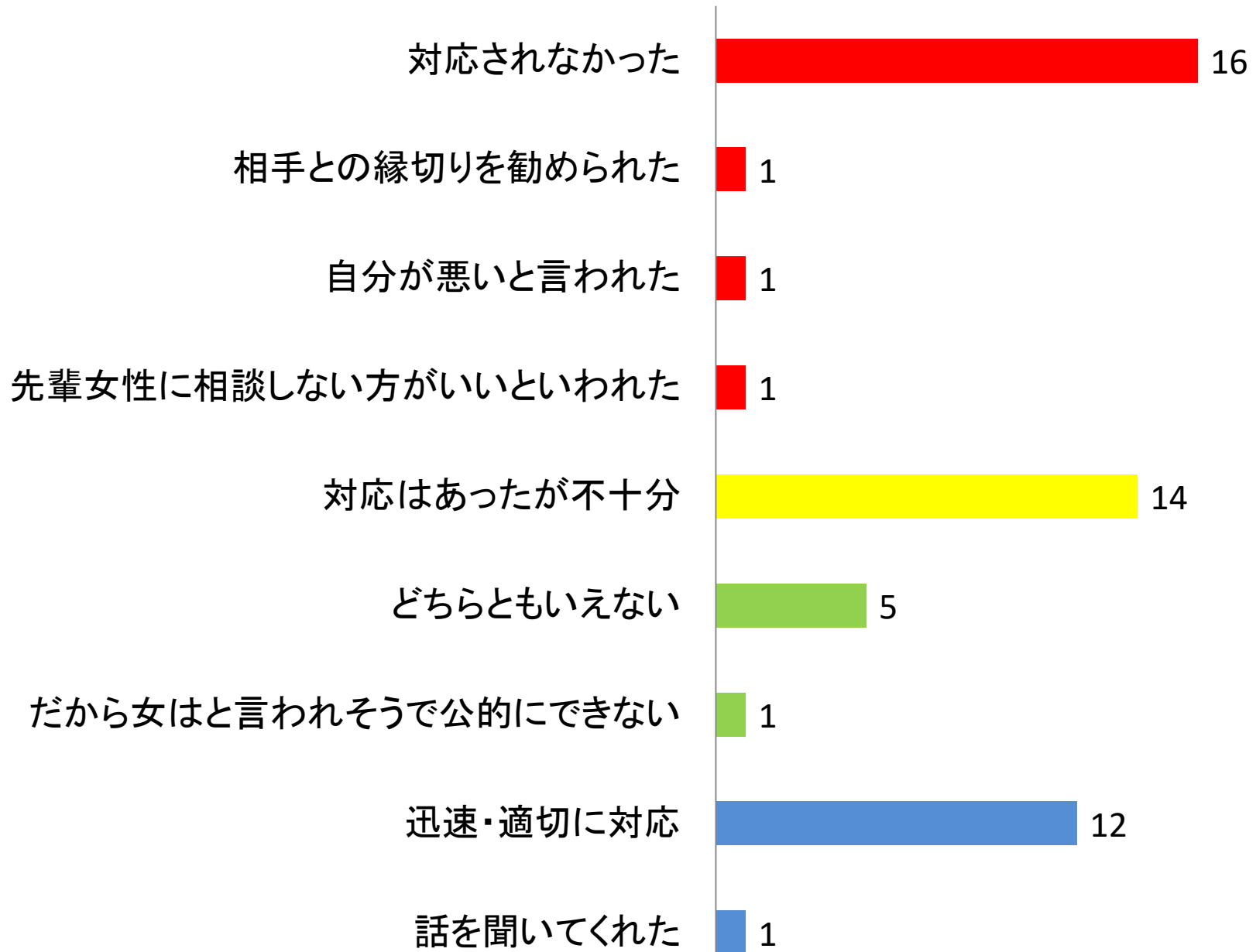


相談相手は

相談相手

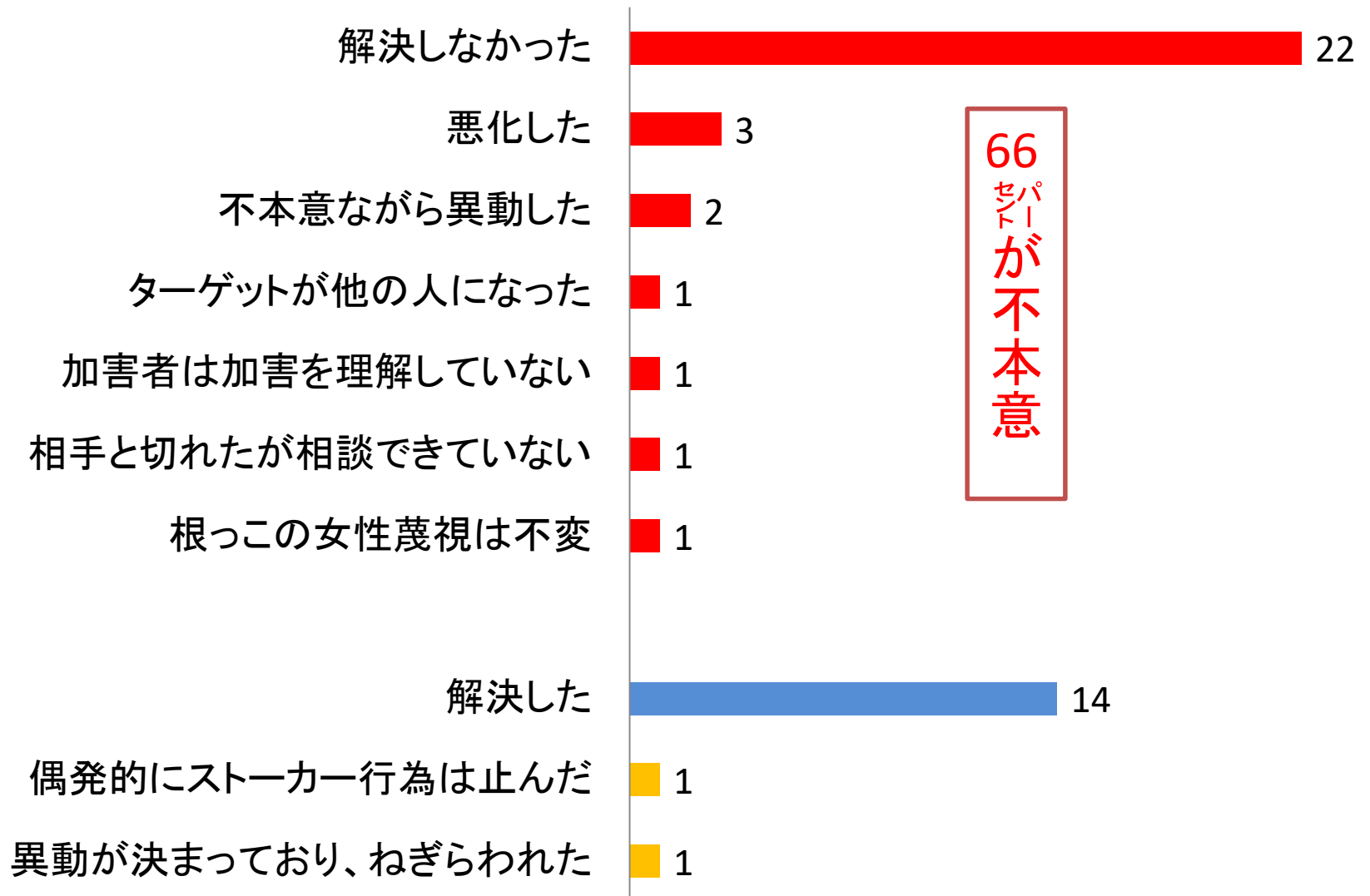


相談後どのような対応があったか (N=47 複数回答)



相談したことで解決したか

N=47

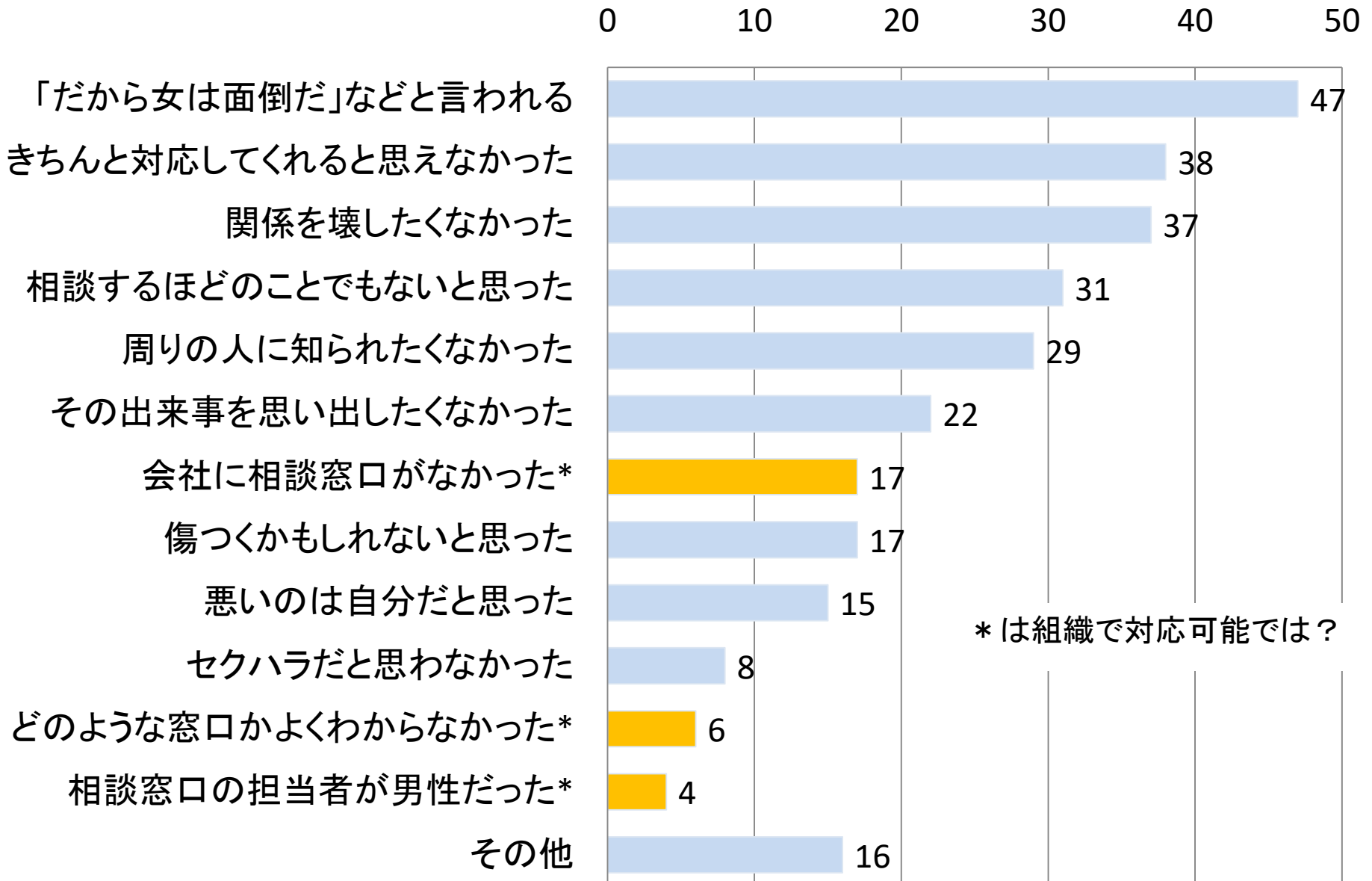


相談したときにどうしてほしかったか

(自由記述 44人のうち32人が回答)

- 加害者の処分と、徹底した再発防止策の実施
- 担当を変えたり、相手にそれなりの対応を取ったりしてほしかった。
- 組織として取材相手に抗議してほしかった
- 記者クラブでの下ネタが常態化、ひどかったのは他社の先輩。同じ社の先輩には、できればやめさせるように言ってほしかった。
- 一人で抱えきれなかったので、話を聞いてほしかった
- 相談したあと「俺らを売った」と逆に当たりが強くなってしまった。報告した後にそういった復讐から守ってくれること、明確なペナルティを科すこと。うやむやにしないこと。
- 周りや相手に嫌だったことを伝える方法など教えてほしかった
- 被害を受け止めて、それは「つらいこと」と認めて欲しい。直近の上司には実際に認めてもらった。一部同僚には「そんな人ばかりではないから」とあまり意味のない慰めを受け、余計に腹が立った

相談しなかった理由 (N=75 複数回答)



* は組織で対応可能では？

今回の財務省のセクハラ対応

政治家らの反応について① (自由記述 122人中104人が回答)

- 幼稚な言葉を使うんだな、と思った。レベルが低くて呆れた。
- 今回の件で、「自分がいかに言葉のセクハラくらいやりすごすのも仕事の実力のうち」くらいの勘違いをしてきたのではないかと思いき、後悔の念が吹き出し、ニュースを見るだけで今はしんどいです。
- 政治利用で野党が騒ぐのをやめてほしい。かえってセクハラ被害の本質を見失わせることになる。
- セクシュアルハラスメントとは何かと言うことを全く理解していない。これが日本の男社会の縮図、本音の反応だと思った。
- 女性を軽視していることも腹立たしいが、「話を聞く」という取材職のスキルも軽視していると思う。
- 事実確認が必要であるのは間違いないが、セクハラはされた方がどう思うかが前提であるし、そもそもセカンドレイプとも言えるような発言を繰り返すことに絶望を覚える。
- 何も変わっていないという無力感

今回の財務省のセクハラ対応 政治家らの反応について②

- 財務省の対応は、女性記者をバカにしたような対応でとても不愉快だった。「どうせ名乗り出られないだろう」と強く出たのだろう。記者レクでたばこを吸いながら対応するような政権与党なので、セクハラ問題に常識的な庶民目線で対応できる姿勢は元から持ち合わせていないのだろう。女性活躍とは名ばかり。
- 国のリーダーがセクハラに対して無理解。被害者に対する配慮にかける。数々の配慮に欠けた発言を、子どもたちや若い人たちに聞かせたくない。
- 被害者を責めることに転じているのが許せない。メディアの同業者にさえそういう傾向があることが恥ずかしい。
- 人気取りで女性活躍社会などと言いながら、ついに男の本音が出たなと思った。
- 被害者の女性を仕事相手だと思っていない。下に見てもいい存在だという意識がある。セクハラは人権侵害だという認識が無いのだと思う。
- 被害者の心情について本当に分からないのだと思う。仮に相談体制が整っていたとしても、被害を口にするだけで苦しくなる人がいる。その前提が、財務省だけでなく、社会的に共有されていない。
- セクハラが蔓延しているため、自覚がわきにくいのではないか。女性の本音を知らなさすぎるのは、これまで本音を伝えてこなかったことも影響していると感じる。
- 日本の民度の低さが象徴されている。

セクハラについて①

(自由記述 127人中97人が回答)

- 全て加害者側の問題だし、被害者に落ち度などない。マスコミは相手に媚びてもネタをとれという圧力が酷すぎる。社員記者は会社が守るが、フリーランスは誰も守ってくれない。仕事のために男性のデスクらに媚び、セクハラされ、能力がなかったかのように切り捨てられる。社員記者が「セクハラだ」と騒いでいるのを見ると、正直甘いとすら思う。
- 閉鎖的で古い業界で、男性もハラスメントにさらされていることは想像でき、この問題と一緒に取り組んでほしい。セクハラは男性の問題であることがもっと認識されなくては、社会は変わらないと思う。
- 組織内のセクハラはこの20年くらいで少しずつ改善されてきた。ただ、女性正社員への被害が減っているだけで、派遣社員やフリーの人に対するセクハラは悪化・増加傾向にある。「権力を持つ者」が、持たないものに対して行う、嫌がらせ・犯罪だと思う。
- 社内の上司のセクハラにあい、半年を経て、上司に処分が下った。しかしその後、私自身が仲間はずれにされるなど大変だった。今回訴えた女性の方もこれから大変だと思うが応援したい。

セクハラについて②

- セクハラに遭いやすい職業だから男性がやったほうがいい、だなんて、セクハラ容認に他ならない。
- 記者の仕事にはセクハラはつきものだ。会社に言えば他の男性記者にチャンスが譲られるだけだから、割り切ってきた。チークダンス、息を吹き掛けられる、夜回り先でのキス、エレベーター内での抱擁、相手のオフィスに連れていかれたら無人で押し倒してきた政治家もいた。幸い事故にはならなかったのは「記者ですよ、書きますよ」と私が声をあげたことで政治家が思い止まったから。思い出すたびに嫌悪感がつのり、ネタをとれなくていいやと割り切り、会わなくなった。ただ、こういう方に電話でいつでも取材できる関係は一線記者にはありがたく、心中ばかりにしながら許容していた。社内のセクハラは枚挙にいとまがない。社内の男性は、女は、飲み屋の女の子か奥さんしか知らないから仕方ないと思ってきた。今の社長クラスはセクハラをセクハラと思わない福田氏みたいな幹部と親しく、信頼できない。社内の幹部研修で、若い女性部下とは二人きりで飲食しないといった、見当違いの指導がまかり通っている会社は信頼できない。言いたいことはいっぱいあります。

セクハラについて③

- 今回の件では、同業者として被害者側の説明には違和感がある。他社に取材先を明かし、録音を渡したのは信じられない。方法はもっと他にあり、記者として報道機関として認識が甘すぎるし、恥ずべき対応だったと感じる。
- 加害者が何の懲罰・批判を受けずのうのうと生きている事が許し難い。
- これまでセクハラは仕方ないもの、いい記事を書きたければある程度我慢するものだと思い込んでいた。今回のテレ朝記者の勇気ある告発で、それは間違ってると気づかされて感謝している。取材活動のあり方も、セクハラの温床になっている気がする。ひとりで行きたくないと思う取材相手はいるが、同僚や上司にネタを取るためだろと言われそうなので言えなかった。こういう不安などをきちんと打ち明けられる環境風土にしてほしいし、取材活動のやり方の見直しも必要だと思う。もちろん一対一で誠実に話してくれる男性取材相手は山ほどいるが。
- 「何がセクハラになるのか」を啓発するだけでなく、もしセクハラ相談を受けたらどう受け止めて対応すべきなのかについて、研修や啓発を広めるべきだ。被害者は二次被害についても苦しみ、それがさらに周囲に相談しづらい状況を生んでいる。当事者を支える人を増やしてほしい。

セクハラについて④

- 責任を感じる。自分が受けたこと(取材とは無関係に1対1の食事に誘われる、頻繁にメールが来る)はあまりに軽微だ。ただ、それが仕事と無関係で、かつ、決して愉快的時間ではないと分かっていたのに、断るという選択肢すら頭に浮かばなかった自分は、感覚が麻痺していたと思う。職場での性的な話題を笑って受け流してきたことも含め、ハラスメントを許す空気を作ってきたのは私自身だ。
- かつては「うまくかわすこと」が一番だと思っていた。しかし、年月を経て、私がしてきたことが、いまの若い子たちを苦しめていると感じる。なぜ、相手に不愉快だと伝えなかったのかと自問する。ただ、セクハラ窓口があっても、自分がセクハラにあうとは思っておらず、相談など想定しなかった。また、日本はきちんと相手にNOという習慣がなく、やんわり断ってもさらに誘われたら、どうすればいいのかわからなかった。男性側がセクハラの「冤罪」への恐怖を露骨に表す。もっと積極的に相手が何をセクハラと感じるとか、どうしてほしいのか、話し合っていて欲しい。男性も、女性から言われて不快に感じたら教えてほしい。男女で対立構造を作りたいとは思っていない。どうしたら、お互い気持ちよく仕事ができるか、一緒に探っていきたい。